

日本から約1万2千キロ！

タンザニアの子供たちと英語で異文化交流

3日、区立杉並和泉学園（和泉 2-17-14）で、インターネット電話サービス：スカイプを使い、アフリカ大陸の国タンザニアの子供たちと英語を通じて国際交流を深める特別授業が行われました。参加した5年生の子供たち88名は、英語での学校紹介や日本の遊び、ぶんぶんごまの実演などを通じて交流を深めました。この取り組みは、子供たちが日頃学習している英語の成果発表と、国際交流・異文化理解を深めることを目的として行われたものです。

アフリカ大陸最高峰キリマンジェロがあることで有名なタンザニア連合共和国は、日本から約1万2千キロメートル離れた中央アフリカ東部の国です。今回の特別授業は、杉並区和泉の地域で、スポーツ、お祭りなどを通じて地域の子供たちと交流を深めよう集まった「親児の会」のメンバーの1人長瀬利雄さんが、JICA（国際協力機構）の現地タンザニア事務所長を務めることになり、タンザニアの子供たちと学園の子供たちが交流する機会を作りたいと学園へ働きかけたことから実現しました。

小学校1年生から英語の授業を行うなど、英語教育に力を入れている学園は、今回の提案を子供たちが日頃学習している英語の成果発表の場と国際交流・異文化理解を深めるための絶好の機会ととらえ、特別授業を実施することにしました。



学園内の小アリーナに設置された縦横約2メートルのスクリーンには、現地タンザニアの子供たちの様子が映し出されました。交流ではまず、学園の子供たち10人ほどが、教室や概観などの写真を見せて英語で学園紹介と自己紹介をしました。自己紹介は、サッカーボールでリフティングをする男の子やクッキーのパッケージを見せて自分の好きなお菓子を紹介する女の子などさまざまです。さらに、学園の子供たち約10人が、日本の伝統的な遊び、ぶんぶんごまの遊び方を実演しました。それを見たタンザニアの子供たちが、事前に日本から送ったぶんぶんごまに挑戦し、うまくできると学園の子供たちからは大きな拍手が沸き起こりました。すると今度は、現地の小学校の子供たちから、音楽に合わせたダンスが披露され、学園の子供たちは真剣に聞き入り、ダンスが終わると再び会場は大きな拍手に包まれました。約45分の交流は、両校ともに笑顔で無事に終了しました。

参加した子供たちからは笑顔で「面白かった」という声が多く聞かれ、この日司会を担当した英語担当教諭は「日本は日本語、タンザニアはスワヒリ語が主な言語だけど、今回のように英語が話せればお互いにコミュニケーションがとれます。英語は世界中の人と話すことができる素敵な言語です」と話していました。

【報道機関 問い合わせ先】

杉並和泉学園 電話 03-3322-7671

総務部広報課 電話 03-3312-2111